

DA・M 『Random Glimpses／でたらめなわけ』 構成表

ソロ構成:八重樫聖+今井あゆみ+中島彰宏 音響:遠藤寿彦 舞台:吉川聡一・山崎久美子 全体構成:大橋宏

-T		今井	中島	八重樫	大澤	坂本		
3	Act.1 同時ソロ 日常への視線	「本日は敗北なり」 1. 腕組み／日常1 記憶のフラッシュバック鏡／楽しいステップ ストッキング／足の放置 2. 妄想1 過剰な妄想 周囲からはじかれる 左足への興奮 3. 妄想2 崩壊 履けないストッキング 頭上の星／ジャンプ 倒れ込み(黒星マーク) 4. 妄想3 追い詰められる 制御不能	「どうにもならない日常／どうしようもない日常」 ・足元にカセットを置き 音声(洗濯機音)を流す 1. 部屋の中 日常の堆積した身体 の反復／歪み 神経的麻痺・痙攣 2. 部屋から抜け出る 身体からの分離 外部からの攻撃 ペットボトル／トマト 3. 再び、部屋へ 空間と身体の散乱 自覚	「私の一日」 1. 歩行／労働 盲動的労働／ 違和と拒否 こぼれる砂 2. 砂を散らす／帰宅 口紅等小物が 身軽になる／ 膨張する自堕落 意味のない行為 3. 服を脱ぐ・唄 ／脱皮・変身 目隠しの彷徨 アルカイクスマイルの 唄	9:00 視線1 <現在の視線> 椅子に座りながら、 少しずつ、 客席から前へ進み 出ていく 一壁前にて、「壁」 を注視する	視線2 <記憶の視線> Drwaing 「戦争体験のない戦争の記憶」		
6								
9								
12								
15								
18								
21								
24							各自 30	※ 上記行為は、個々の日常時間への異なる視線(意識)が提示されている。時に概念的、感覚的、神経的、である。それぞれ、日常の模倣であり、模倣行為が脱構築される。個々の時間は相互に無関係に進行する。
27							※ 上記行為は、観客入場時のままの日常電灯(蛍光灯)の中で行われる	
30							※ 3回ほど、音(Mozart の断片)が挿入される ※ 舞台下手奥壁に、ステンレスでできたただの壁が組み込まれている。行為を無化する現前性の再提示。	
33	Act.2 揺れる現在	0. 個々の行為が遠景化 される。椅子の背景にて、残り行為の遂行						
36		1. ソロ時間の終了の確認 (舞台の若干の片付け、身だしなみ、他) ※ 照明が、蛍光灯より舞台照明に切り替わる。 ※ 映像: 壁に映像が薄く、映る。「日常の底板の下に流れるもの／高速な時間」(木立の間を走る列車。遠景から近景へ反復)						
39		2. 進行する<現在>の中へ 定まらない時間と場所、内、外へと交錯する視線 ※ この間、 衝撃音 の不規則反復。						
42		Act.3 即興 反復、内と外へ	即興1<ソロ・モチーフ>の反復 Act1 での3人のソロ行為から、それぞれ3つの個人モチーフ(計9つの行為モチーフ)を持ち出し、お互いに共有し、それら9つの個人モチーフによる即興行為、及び、何も呈示しない時間<無行為>行為(何もしない行為)を並置的に展開する。 ※ ソロ・モチーフによる即興行為は、先ほど数分前と同じ動きでありながら、身体内部の<新たな生>の在りかへと、越境する。個的な存在を超えた<生>へ ※ 想像的な音から単調な日常音へ					
45	即興2<世界・モチーフ>の挿入 無行為時間、及び(上記)ソロモチーフ行為に接続しながら、今、ここ、から覗き、遠望する視線<あらかじめ用意された9つの世界モチーフ>による即興行為。 ※ 今、ここ、での行為の直中に、今、ここ、の外部(不在)の召還。 ※ どこにも収斂しない、多様なく<生>の交錯・明滅 上手壁前に3人並ぶ、 暗転							
48								
51								
54								
57			Act.4 断続	単音発声: 上手壁前に3人後ろ向きに並び、ゆっくりと Back Step. 強い息遣いで、間をとりながら、単音を発声していく。				
60				※ 単音は、今、ここ、から遠望していく、地名の頭文字一音 ※ この時間は、Act1の蛍光灯が断続的に点滅する。断続的な音の挿入。				
						視線3 Speaking 「壁」について <揺れる現在> 今、ここでの視線 1. 視線4 椅子を客席前に横に並べる(16脚)<対峙する視線>／舞台(行為)の遠景化 2. 視線5 椅子を前後にずらしはじめる<視線の差異／奥行き／今、この内と外／揺れる現在> <静寂> 3. 視線6 椅子を倒す／起す 反復<ランダムな視線> 視線7 再び、視線2の反復 Drawing 「戦争体験のない戦争の記憶」に潜り込み、体に刻み込む 視線8 足で静かにゆつくと、椅子押して、動かす 「内から外へと流れ出る、何か」 視線9 再び舞台に椅子を差し込んでいく。(8脚)<視線<不在>の挿入> 視線 10 人形を椅子に座らせ、(彼／彼女を)対座して、凝視する ダンス 他者(人形)を抱えながら、静かにゆっくり回る(生のダンス)		

構成覚書き

舞台上の行為は、ほぼ、日常行為の模倣(ミメーシス)によ

Act.1 ソロ行為に関する俳優の覚書き

八重樫聖「私の一日」

1. 歩行／労働

日々の労働／いつもの労働(平坦なリズム)／盲動的労働／快活、または淡々とした歩行

歩き続ける 一定の速度で切れ目の無い長い曲線の歩行
1〜100へ途切れない歩行
ポケットの砂を撒く 漏れる声

ストップが始まる／歩行、労働への拒否と違和感、綻び
短いリズムの歩行、直角や直線的な歩行が混じる

変則の歩行 10〜15歩の曲線の歩行と方向変更
1〜7歩の直線歩行と方向変更
場所の規定 短いストップから後ろへの歩行
ポケットの砂を撒く／漏れる声

2. ストップ／帰宅／意味の無い行為／膨張する自堕落

前にも後ろにも歩行、労働は無い、何をすればいいか、何もしたくない

身軽になる
ポケットの中のを捨てる、零れ落ちる
砂、口紅、ポマード／日常の品と埃、感覚
意味の無い行為
唇に触りながら辺を見回す なにをすればいいか、何もしたくない
砂を散らす／自堕落／妄想か記憶か
床に散らばった日々の生活用品を足で退ける、除ける
起き上がりがたくない、何もしたくない
脚で砂をズツ押しつける→倒れる、床でズリズリする反復
本を読む(壁男)or(女学生)

3. 変身／狂おしい夜／薔薇のダンス

脱皮 何者かになろうとする
服を脱ぐ 服を脱ごうとする 目隠しの彷徨 脱ぎ捨てる
吠える準備と発射
髪にポマードをし、歌を歌う アルカイックスマイルの歌

中島彰宏「どうにもならない日常/どうしようもない日常」

洗濯機の音

(日常の堆積した身体)が挿入され反復される・両肩に荷物がある / 起き上がり、崩れ落ちる・手をグーパーする

(日常の歪み)

・を横に振る

(感覚)

・目がパチパチする

・煙草の煙が身体を伝わり、指が痙攣している

・頭、米噛みの辺りが神経的に痛い・靴の紐が、両足で結ばれている

・手、顔が赤インクで汚れている①②ともに上記の要素は、同じく進行する

・「トーン トーン トーン・・・」と声を上げていく日常から離れた状態 遠くで聞こえる建築現場の音 記憶

・身体を直角に曲げ、首を前に突き出す 頭部が外れる/ 伸びた首

・ペットボトルを飲ませる頭部がなく、身体が分離している

・トマトで目を潰す

- ・「パリ,テキサス」のテキスト高架路の上で叫ぶ男 幻影 もう一人の私・四つん這い
- ・トマトをぶつけられる 攻撃される
- ・「アー」とどこにも根拠がないような声が出る。/ 仰伏せになって,両手,両足を上げ床を転がる

【補足 memo】

洗濯機の音★(日常の堆積した身体)が挿入され反復される・両肩に荷物がある / 起き上がり,崩れ落ちる・手をグーパーする★(日常の歪み)・首を横に振る★(感覚)・目がパチパチする・煙草の煙が身体を伝わり,指が痙攣している・頭,米噛みの辺りが神経的に痛い・靴の紐が,両足で結ばれている・手,顔が赤インクで汚れている①②ともに上記の要素は,同じく進行する・「トーン トーン トーン・・・」と声を上げていく日常から離れた状態 遠くで聞こえる建築現場の音 記憶

・身体を直角に曲げ,首を前に突き出す 頭部が外れる/ 伸びた首・ペットボトルを飲ませる頭部がなく,身体が分離している・トマトで目を潰す・「パリ,テキサス」のテキスト高架路の上で叫ぶ男 幻影 もう一人の私・四つん這い・トマトをぶつけられる 攻撃される

・「アー」とどこにも根拠がないような声が出る。/ 仰伏せになって,両手,両足を上げ床を転がる

麻痺的なもの

永続性

やめることが出来ない

一食り食う/ 煙草を吸う

同じことを繰り返す

固執 依存症

同じことが繰り返される

反復

・洗濯機の音

外から聞こえてくる音

日常の中で流れている時間

【部屋の中の風景】

一部屋で狂った,狂っていた時間

舞台上手は部屋の中の風景,一人の時間へ入っていく,洗濯機が日常の中で流れている,TVから声も聞こえる,洗濯物,コインランドリーへ入っていくゴミ袋,コードなどが置いてある。抜け落ちたような状態で,扇風機の前で,意味もなく首を横に振っている。

何も手につけられずに,散らかった物の中にいる,ジリジリした感じ,溜まっていく。日常の中で,堆積し拘束されている。完全に身動きが取れない状態を実感する。身体(頭)も重い,PCに向かうと目がパチパチ(何か光のようなものが見える)する。頭,米噛みの辺りが神経的に痛い。潜在的な切迫感,処理することが出来ないことへの焦り,苛立ち。混乱状態で,壊れていた赤ペンからインクが溢れ,手に付き,顔や鼻を擦り,気がつくについでいた。

依存的に整理・整頓を繰り返しては片付けられなくなり,物が散乱する。手につけられない。自分が狂う手前であることを実感する。散乱した物の中で,身を悶える。「アーという、自分が狂っていることを自覚する、どこにも根拠のないような声を出す。」

いつ自分がどうなるのか分からない。離れてしまうのか。日常に戻ることを希求する。

それを,笑っている私

回復することが出来ない,取り戻すことが出来ない

日常さえも壊れてしまう,壊してしまう

日常へ帰る場所さえ失ってしまう。その中へ入ることさえ出来ない

どうにもならない私

【日常性 /非日常性】

日常に侵食されていく

ここから聞こえてくる音

日常の歪み(ヒズミ)から,沸いて出てくる

人の感情や,不純物

【要素】

●「靴の紐が結ばれている」

靴の紐を、両足で結んでしまう

日常ではあり得ないこと、相反することを無意識の内にしてしまっているような行為

自分では,それに気づいていない

何か(頭の中)がズレているような感覚・状態

頭の中の構造が壊れている

明ら様さ 思い込んでいる 妄想 錯覚

●「荷物が二つある」

堆積した身体
拘束される身体
具体的なフォームが積み重ね、壊れていく
時折見える外形的フォーム
両肩→起き上がる・崩れる→床での弄り→床を転がる

→両肩

両肩に荷物が掛かっているような状態
荷物が重い
身体が蝕まれていく感覚
身体に赤い痕がついている
荷物を弄っている 身動きが取れない

→起き上がり,崩れる

荷物が重くて床に平伏している 起き上がろうとする(立ち上がる)が、また崩れ落ちる
徒労感 疲労
願望 望み 願い 希望 救い
それを繰り返す
上昇と下降
重さ

→床での弄り(金網の中の身体)

床で荷物を弄る 散乱した物を掻き分ける
手(腕)が入り乱れる がんじがらめになる
金網(傘の骨)の中で、身体がもがいている
出ようとしようとする意志
痛み 傷

→床を転がる

散乱した中で、身を悶える
仰向けになって、両手両足を上げ床を転がる
「アーという、自分が狂っていることを自覚する、どこにも根拠のないような声を出す。」
どうにもならない私 解放

●「両手が塞がっている」

手をグーパーする
何かをしようとしても、それをすることが出来ない
手につかない 別の物を持っている 頭の中の何かを外れている 身体もズレている
抜け落ちた感覚 收拾がつかない 身体があべこべなことをしている
掴む、持つことが出来ない 捨てる、処理することが出来ない 手離すことが出来ない
追われている 追い立てられている 追いつくことが出来ない
焦燥感 焦り 諦め 諦観

●「不自然な首の動き」

身体から外れている感覚
扇風機の前で、意味もなく首を横に振っているような状態
抜け落ちている

(変調)

狂気

●身体の中に入るもの

自分から/人から
精神的に耐えられなくなっていく
身体も変調していく

・煙草の煙が身体を伝わり、指が痙攣している

→身体は直通している

【身体の中に入ってくる】

日常の堆積が、どんどん身体の中に入ってくる
→他者が侵入してくる
侵害される 妨害される
携帯の受信 ポストに新聞が投げ込まれる チラシが投函される 脅え(怯え) 震え 切迫感 動悸 動揺 吐き

気(嘔吐) 腹痛 血が引いて行くような感覚 神経症的なもの 人の声 言葉 音 他者からの圧迫

●頭が痛い

頭、米噛みの辺りが神経的に痛い
頭が重くて動けない状態

一頭部がない感覚

●身体に何を食べさせるのか

・ペットボトルを飲ませる

頭が指令を出し、身体にさせる行為

頭が食べたいと思ったものが、身体にそうさせる。口を通り、身体の中に入っていく。

頭が指令を出したら、身体に変なものを食べさせることができるか？

頭と身体の違い 妄想

壊れていく→変容へ

人にされること

★させられる身体・使役される身体→自らする行為へ→自らする身体へ変容していく

一させられる身体、使役されること

●攻撃される

他者から受ける、いわれのない攻撃

非難 中傷 無関心 排除される 否定される

・トマトで目を潰す

一人からされること

一自分を叩こうとする衝動

苛立ち 憤り 怒り 他者へ向かっていく

内省的な自虐行為

トマトで変容する

・トマトを投げつけられる

人による感情の吐露をぶつけられる

それを手離しで受けている

●遮断する(視線 内/外 遮断)

事務所でPCに向かっている 事務所での監禁状態

尋常ではない様相 見ていない視点 現実世界から離れている

目は見開いて、視点が一点になっている 末端神経が壊れている PCを叩く指の動き

PCを叩く音だけが聞こえる 誰もいない 何も聞こえない 話しかけられても応えない

視界に入れない

誰も、何も自分の中に入れない 一切のもの(他者)を遮断している

拒絶 隔絶 防御 抵抗 攻撃

人にされること 人から受ける仕打ち 裏切られたり 無関心さに対して

・目がぱちぱちする

何か光のようなものが見える

(変容)

●頭部が外れる

頭部と身体の分離 異質な感覚

伸びる首

身体を直角に曲げ、首を前に突き出す

●壁の中から異物が出てくる

日常の壁、奥底から

地下鉄の通気口から、聞こえてくる音

四つん這い

頭部がない身体

●「トーン トーン トーン・・・」と声を上げていく

日常から離れた状態 遠くで聞こえる建築現場の音 記憶

●「高架路の上で叫ぶ男」

『パリ、テキサス』のテキスト

一安全な地帯などどこにもない

幻影 もう一人の私

帰る(安息の)場所さえない/失う

今井ノ口構成表

		イメージ	コトバ
12	日常1 記憶のカケラ フラッシュバック	<p>下手に腕組みをして立っている。部屋なのか外なのかよくわからない場所（長い）</p> <p>↓</p> <p>楽しくステップする記憶が突然あらわれる。</p> <p>↓</p> <p>元の位置まで戻ってきて再度腕組みの時間に入る（長い）</p> <p>↓</p> <p>さっきのステップの時間がより大きくあらわれる。1回目より短く</p> <p>↓</p> <p>ステップの途中で腕組みしながら元の位置まで戻って腕組み（短く）</p> <p>↓</p> <p>かかっている鏡を見に行く。軽快さを出して</p> <p>↓</p> <p>元の位置に戻ってくる途中で左足つま先の微かな記憶。すぐ戻って腕組み</p> <p>↓</p> <p>腕組みしたまま細かなステップがふと入る。空間も移動しつつ、次第に肩に抵抗を感じる。</p> <p>↓</p> <p>上手奥で記憶の時間がSTOPし、腕組みしたまま大きく空間を鏡まで横断。鏡で再度、髪、肌、チェック。 他にすることもなく、後ろにひっくり返り、左足を上に放置してみる。</p> <p>↓</p> <p>元に戻ってきて腕組み。部屋の中。（長く）</p> <p>↓</p> <p>毎朝の支度、ストッキングを履くときの嫌な記憶がふとあらわれる。 打ち消すように腕組みに戻るが、身体の重い、嫌な記憶が数度あらわれる</p> <p>↓</p> <p>腕組み</p> <p>↓</p> <p>現実逃避でだれかに寄り添う感覚があらわれる</p>	
18	妄想1 過剰な妄想	<p>寄り添った相手から拒否される。はじかれる。 そばに近づいてもはじかれる。いろんな人からはじかれる。 世の中全てからはじかれていくような妄想。</p> <p>↓</p> <p>妄想から醒めて部屋で足を開いて立っている。立っている場所が、腕組みしてた場所から少しずれている。平気ぶる。</p> <p>↓</p> <p>左足に履かれたストッキング。ストッキングを履いた左足をみんなに見せていく。 女らしい自身の姿が嬉しい。社会で働いている自身の健全が嬉しい。</p> <p>↓</p> <p>客前まで左足を見せ付けた後、腕組みに戻るが、興奮の熱を帯びている。</p>	コトバ 1
30	妄想2 壊れてくる	<p>朝の支度。ストッキングを履こうとするが、履けない。身体がリズムを打っている ストッキングを履けないトントントントン、不安感のトントントントン。急いでいるときに履けない焦り。準備しなくてはいけない強迫観念。必死に履く。</p> <p>↓</p> <p>周りは暗闇。唯一、私の頭上で星が輝いている。輝く星しかない。少し不安が取り除かれてくる。取り除こうとする。</p> <p>↓</p> <p>断ち切って、鏡を見に行く。ジャンプしながら。クリームを顔に塗りたくっている。かと思えば、空間を大きくジャンプする。外に恨み・ストレスを発散させながら。</p> <p>↓</p> <p>突然、下に腹を地につけ倒れこむ。今日は敗北してとても立ち上がって来れない。 これでもか、これでもかというくらい腹で地に黒星を描き続けてやる。自嘲。</p>	コトバ 2 コトバ3
36	妄想3 追い詰められる	<p>妄想でへとへとになっているが、腕組みをして、健全な日常に戻ろうとする。 興奮で口も開いてしまうし、顔もこわばっている。</p> <p>↓</p> <p>「どんな苦難も困難も人間関係も女性はおらかに笑顔で」を思い出し、 笑顔をつくる。現実逃避したい、はじかれる、時間にせまられる、笑顔で、 急がなきゃいけない、お星さま助けて、でも頑張る、やっぱり逃げたい、逃げちゃ だめ、寄り添える幸せな記憶、焦り、希望、が身体の中で交錯ってきて、 我慢が限界にいたる</p>	

39	制御不能	腕組みして、健全な日常に戻ろうとするが、大きくのけぞったまま、顔が壊れている。	
----	------	---	--

今井ソロパート memo 2008. 1

●腕組み

人間の動作を研究する学問に、キネシクス(動作学)というのがあります。それによると、腕組みの動作は、

「心臓を守る」⇒「自分を守る」⇒「自分の安全範囲を広げる」⇒ ⇒「自分にあまり近づいて欲しくない」

となります。同時に、「自分を大きく見せる」という意味もあります。

異民族の集まりであるヨーロッパでは、常に自分の安全を確保する必要があり、それが動作に無意識に表れます。上下関係にきびしい日本では、「オレが偉いのだぞ」を無言に表現する時にこの動作が表れます。

また、ヨーロッパでも日本でも、相手の話にあまり賛成したくない時にも、腕を組むことがあります。腕を組んで人の話を聞くのは、相手の話に対して壁を作っていることとなります。そのため、相手は、あなたの無言の抵抗を、無意識のうちに感じるようになります。会社の中でも、そのような態度をとる社員は、上司にも、部下にも、あまり好かれません。

ただし、話し手も聞き手も、腕を組んでいることがあります。この時の腕組みは、相手に同調していることを意味します。

●土偶

「腕組みで憩うがごとき土偶あり子を産まむとす母とし聞けど」

土偶のコーナーに立ったときである。小さな20cmばかりの土偶に興味をもった。

華奢な女性が腕を組み、右足を左足の膝に乗せている土偶にである。

仙台駅のコンコースのベンチでスラックスの女性が優美に足を組んでいるような姿である。

名称は「腕組みをする女性」であった。

土偶の女性も足が長く、丸顔で目が大きくて愛らしい。説明文を読んで驚いた。

3500年前に作られた土偶で、出産をしている姿勢なのだという。土偶といえば縄文時代の後・晩期に多く作られ、女性像が多いことを中学生か高校生の日本史の時間に教わった記憶がある。

「腕組みをする女性」の隣には、足腰がたくましく、胸を張った、両腕の太い顔の大きな女性像があった。

小さな土偶は(あまりにも女性らしい姿)なのである。この姿勢で縄文時代の女性が出産したとすれば、驚きでしかない。医学的にも合理的で理想的な姿勢であれば、現在の出産にも取り入れられているはずだろうが、聞いたことがない。

「腕組みをする女性」は輪切りの丸太のようなものに腰を下ろしていた。

あの、丸太のようなものも出産に必要な道具?だったのかもしれない。

いや、このようにリラックスした姿勢で出産ができれば、どんなに良からうか...と、祈りの対象としてこの土偶を作ったのではなからうか、ともおもったが、否定した。学術的な裏付けがあるからこそ「出産をしている姿勢」と表記しているのであろう。

●ネットの中の日記・質問

yahoo 知恵袋

30代男性です。女性に質問します。

電車など人の集まる場所で、胸元で腕組み(という表現で分かります?よく男性が「うーむ」と何かを考える時などにしてるポーズです)をしてる女性が目立つのですが、あれは女性には珍しい姿勢と思うのですが、どういう心境で胸元で腕組みをしてるのですか?電車などで近くに来る女性は皆このポーズをしています。まるでバカにされてる気持ちです。

別に深い意味はないですけど。私は寒いときによく腕組してますね。ただ、無意識に警戒している時など腕組したりするらしいですよ。バカにはしてないと思います。

意識して見た事ないけど。痴漢からガードしてるんじゃない?

ええええ?私は会社で普通に腕を組んだりします。男性と心境は変わらないのでは?

意味は特に無いです。考えていたりしても、組むし。電車では自然と組むかも。混雑していると、胸が当たらないようにとか。

サトコ

だめですか?女性が腕組むのはそんないけないことですか?あなたの嗜好なんて知ったこっちゃないです。ほっといてください。こっちこそバカにされてむかつきました。

ひまでする事がないので手及び腕を格納しているのです。おどっているわけにもいかないのです。

あなたの言う、男性がしがちなポーズを女性がするとどうしてバカにされているような気がするのかが良くわかりません。

私は荷物が重いので支えるつもりで腕組しちゃいますけど☆別にバカにはしていませんしそんな事考えた事もなかったです...

・1月23日 腕組み

電車に乗っているとき、考え事をする事が多い。昨日も、仕事のことで考えなければならぬことがあって、腕組みして考え込んだ。うーむ、と唸りつつ、じっくりと考えを進めた。そして、ハタと思った。

「腕組みは誰が最初に始めたのだろうか」。

ああ、かくしてまた不毛な、とりとめのない思いの中に、私は沈んでいったのである。仕事のことは、それっきりどこかへ行ってしまった。

略

腕組みをする理由は、大きくふたつあげられるだろう。

ひとつは考え事をするため。もうひとつは自我を守るため。後者は、人を観察していればわかる。初対面の人に馬鹿をさらさない

ように身構えるとき、腕組みする人がいる。他人との関わり合いは時として、自我が攻撃される危険を引き起こす。

何だか難しい言い方になってしまった。噛み砕いて言うと、「ええ、まあ、あなたにはあなたの意見があります。私にも私の意見があります。でも、それを出すのは(覆されると怖いので)とりあえず控えておきましょう。私に安易に近づかないよーに」という感覚だろう。自我を高いままに保とうとする気持ちが、半ば無意識に腕組みしてガードするような体勢を取らせるのだと思う。自尊心と、他人の存在を恐れる気持ちの両方が絡みあっている。

あと、誰かと話していて、話題がないときにも腕組みをしがちだ。これも、話題を作り出せない不安が、腕組みでガードして自我を守らせる姿勢をとらせるのではないかな。

あくまで印象だけれど、若くて、頭がよく、神経の細い人にこの姿勢を取る人が多いように思う。しかとしたことはわからないけど、自我を守る腕組みが生まれたのは、割に最近のことではないかな。漱石先生かフーコー先生にでも聞いてみなければわからないが、西洋近代代というものとは関係しているような気がする。

私のもっぱら問題にしたいのは、前者の、考え事をするときの腕組みである。こちらは西洋近代代なんてもものより、ずっと昔からあったような気がする。「気がする」というのも実に心許ないが、しかとしたことを知らないもので、そう言うしかない。

民族的な習慣ではなく、世界中、普遍的な行為のようにも思う。いや、これについても別に確信はない。ただ、チベット人も、マサイ族も、ギリシア人も、考え事するときには腕組みをしそうな気がするだけだ。しかし、証拠はない。ここで、皆様には眉に唾をつけていただきたい。

人はなぜ、考え事をするときに腕組みをするのか？ 別に手をぶらつかせていたって、考え事はできる。しかし、腕組みをした方が、何となく考え事に集中できそうな気はする。

脳神経系統は入力と出力で成り立っている。体全体から常に信号が脳に送られ、脳から信号が返される。

手をぶらつかせていると、風があたりたり、手の動きそのものの感覚が起きたりする。それらの情報を脳に送ると、脳はその分、返信しなければならなくなる。多少、考え事への集中が落ちる可能性がある。腕組みは、余計な情報を脳に送らないようにする方法なのではないだろうか。

ここで、では、「腕組みは誰が最初に始めたのだろうか」という最初の疑問に戻る。よく知らないけれど、類人猿はあまり腕組みして物事を考えないように思う。オランウータンが腕組みしてじっと物考える姿は、もしお目にかかれたらなかなか哲学的な風景だろうが、あまりそういうシーンを見た覚えがない。腕組みはたぶん人間独特の姿勢だと思う。

少なくとも、不完全であっても二足歩行のできることが腕組みの条件だ。やはり、人間が直立歩行を始めた段階で腕組みも始まったのだろうか。もしそうなら、最初に腕組みをした猿人は何を考えたのだろうか。まわりの、まだ腕組みをしたことのない猿人は、腕組みする猿人をどう見たのだろうか。「何やってんだ、アイツ」と不審に思ったのではないだろうか。

「あんな格好してよー、敵に後ろから襲われたら、一撃だぜ」。それでも、最初の腕組み猿人は考え事をやめない。最初は変に思っていた猿人も、相手があんまり長い間、腕組みしてじっとしているの、だんだん興味をそそられてきた。「あの姿勢に何か、意味があるのか。うーん、よくわからん」とその猿人も考え込んで、腕組みをしてしまう。それを見ていた別の猿人も不思議に思って、腕組みをしてしまう。さらにそれを見ていた別の猿人も……とまあ、どんどん腕組みの輪が大きくなって行って、原っぱ中に腕組みした猿人が立っていたらおもしろいんだけど、もちろん何の証拠もありません。

●詩

「壁にもたれて腕組み つまらない気取って踊らない夜も くだらない明日は花火大会です」 夜空』

疲れた夜は 人恋しくて 夜空を見る
巻き戻しもできない過去に 腕組みしてしま
一筋の弦が 張りつめたままだから

海鳴り 響き 彼方への憧れ 宙を舞い
すべて忘れる 眠りにつきたい

さすらう夢は 花散るように 夜空散らす

寒くて 震え 見果てぬ夢遠く 宙を舞う

ふらつきそれでもつかもうと 追い求めてしま
唇を噛んで 手をひろげ すくい取る

夜空くすぐる 飛び散るかけら

●美術

・タマラ・デ・レンピッカ「腕組みする女」

●世界のジェスチャー

・腕組みをする

腕組みをすると尊大な感じに見えるので、人前ではあまりよいイメージを与えません。でも、イタリアではこれが「あなたの話をちゃんと聞いていますよ」という印になります。しゃべるときにははたいてい手のジェスチャーが入るので、腕組みをしているということは、「とりあえず私は黙って聞いている」という合図になるのです。

・<http://www.minc.ne.jp/~mingaraba/naungpha3.html>

ナウンファー村

・「ミャンマーでは、目上の人と話すとき、腕組みをするのが、敬意の表れなんですよ。」

「相手の前に両手をさらして、しかも腕組みをすることで、何も武器は持っていない、攻撃するつもりもない、という意味を表します。」

・アメリカ人の前で腕組みをすると、こちらは「うーん」と考え事をしているだけなのに「怒っている」と受け止められるので、注意する

■腕組み

- ・相手から少し身を話して、腕組み。顔は笑顔。腰を回す。リラックスさせながら。
- ・突然会った相手に、思わず腕組みしようとしてしまうが、拒否のあらわれと思われたくないの、組みかかった腕をほどくが、気づけば、腕は組もうとしてしまう。心臓を守っているのか。。いっさいの拒否。なにも私の中には入れさせない。無感覚にさせる。目もあわせない。目をむき出しにして怒る。口もとがらせる。突然沸いた怒りを押さえ込むように、自分の体を腕組みで押さえ込む。崩れそうな自分の体を支える 夜道歩いていて悲しくて座り込みそうになるとき。通勤途中、電車の中でおなか痛くなり、耐え切れなくなって座り込む。(体が出社を拒否するが、でも行かなくてはいけない・強迫観念)
- ・恐ろしい光景をみて思わず自分の体を守る・不安でしょうがない。何かこふれていたい手。
- ・腕をくんだまま寝てしまった。そのまま悪夢をみてしまっとうなされた。

■手を天に

・★の輝き

- ・電球の取替え・なかなかしまらなくて大変

・パチンコ

- ・おっぱいを触る

- ・ひととの会話・頭がパー

- ・夜寝ながら自分の手をみる

・

- ・手を伸ばす。

すぐに横にある手を取りたいけれど、躊躇って手を引いてしまう。

これをもう何度繰り返したんだろうか……。

(よ、よし……！ 今度こそ！！)

再び手を伸ばすがあと数センチ……3センチの距離がやけに遠い。

・もがきながら必死で手を伸ばすと、その指先に布きれが掠った。それを握り締めて反射的に腕を引く。ガンガンと耳障りな音と共に、数枚の食器が床に投げ出されて割れた。ガラスの欠片が頬を掠めたのだろう。一筋の紅い線。

- ・子供の頃、そう呼んで、伸ばした手を。母親は、決してとってはくれなかった。

手を伸ばしても、届かなかった。差し伸べた手は、何も掴むことはできなくて。かわりに、血にまみれていった。

その、差し伸べた手を、最初にとってくれたのは、たった一人の—————。

- ・一つ願うたびに、一つ失ってゆく。それは、僕に与えられた宿命。

願うコトだけ。失うコトだけ。

ただそれだけを与えられた僕は、何処に行けば良いのだろうか？

手を伸ばして。後少し。後少し。

全ては届かない。知ってるよ。

でも願わずにはいられない。僕の存在理由を奪わないで。

- ・アナタに届けと 願いを天に。アナタに響けと この手を天に。

アナタに愛をと 涙を地に。

舞う鳥の羽根はゆらゆらと

アナタの元に 届イテマスカ

アナタの心に 響イテマスカ？

アナタの中に 溢レテマスカ？

・ペンキ塗りの少年 ■■

緑の野原に仰向けに寝転がり、機械鎧の手を天に向かって伸ばす。

空を何度も掴んでは離し、を繰り返していた。その横顔は些か自信に溢れている。

さくさく、草を踏んで歩く。鋼の顔のすぐ横に腰を下ろす。空を見上げた。

「空に絵を描くんだ」

■うでくつき

緊張

人前で緊張して心臓がドキドキして、顔面が蒼白になり、手足が振るえたりすること。

で、なんでこうなるかというと、人間は、「こー一番」という、「人前で良いところを見せよう」とか、怒りに振るえる(そのまんまですわね(笑))時などは、体を最高の緊張状態にするために、副腎という臓器から、アドレナリンというホルモンが出るからなのです。

そうすると、手足や顔など、抹消の血めぐりが極端に悪くなるために、顔面は蒼白となり、手足には汗をかき、次の動きへの準備のため手足が振るえ出すのです。

怒りほったから横隔膜まで誰かを呪ってやるって気持ち膈らまし

不安

ある若手で女性の経営コンサルタントは、もっと自信をもって堂々と顧客と折衝をしたいという。

特に年配の企業家と話すときに、不安を感じる。そこで、体のどのあたりに、特に不安を感じるかと尋ねてみると、胸のあたりだと。不安を感じる身体感覚をどんどんきいていくと、胸が重くて灰色でどんよりしていて、お腹の辺りがそわそわした感じだという。支配欲 支配欲の強い犬は服従の気持ちではなく、単に撫でてほしくて仰向けになることがあります。